—Peace Through Service— 2012-13 R.I. President 田中作次 R.I.D.2610 Governor 中尾哲雄

国際ロータリー第2610地区 南砺ロータリークラブ

クラブ会報

なんと

NO.2138

URL http:www.nanto-rc.jp E-mail office@nanto-rc.jp

例会日／火曜日 12:30点鐘 例会場／富山銀行福光支店４階 ◆事務局／富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

「横綱白鵬関歓迎の集い」(10・10じょうはな座)
―田中幹夫市長とトークショー

(写真提供＝城端時報社)

第２１９８回例会 平成24年10月23日(火)小雨

◆点鐘 12：30 中田 修会長
◆司会 永井則平ＳＡＡ
◆ソング「我等の生業」

◆会長の時間 中田 修会長

皆さん、こんにちは、今日、二十四節季では霜降、霜降ると書きます。今年は暑い日が続きましたが早や初冬ですね。

《リンドウ》

皆さんが早朝例会で毎年植えている桜ヶ池のリンドウは先週から濃紫色の花を咲かせています。晴れた日には熟年の夫婦や子ども連れなどが見に来ておられます。

そのリンドウは富山県の野生生物(レッドデーターブック)で絶滅危惧種Ⅱ類に記載されている。このままにしておけば無くなるであろうリンドウの種子を桜ヶ池で採取し、福野高等学校農業環境科に持ち込み、バイオテクノロジーによる増殖を依頼した。その後、試行錯誤し３年ほどかけ増殖に成功した。

その知らせを聞いた我がクラブは社会奉仕委員会が04年度計画に自然環境保全を目的に《**リンドウを自生地に**》をテーマに05年５月24日(火)午前６時から早朝例会で第１回目のリンドウ苗植えがおこなわれ今日に至っている。

また、07年８月には、この運動をより多くの市民に理解を広めるため《リンドウプロジェクト》を設立し、会議には当クラブ会長をはじめ、ローターアクト、インターアクト、農業環境科生徒、桜ヶ池土地改良など20名が参加し、今後の課題を熱心に討議された。そこで増殖も大切だか啓蒙活動も平行しておこなうこととし、10月、生徒の図案を取入れ自生地にリンドウ啓蒙案内板を設置した。

《今後の課題》

日々幾多の動植物が絶滅する自然環境ではあるが、小さな花〈リンドウ〉も人の手で育つのではなく、今後、リンドウが自生できる環境づくりが大切と思われる。

◆米山功労者表彰

・4回目…松村 寿君・1回目…谷村信之君、宮川 功君、桶谷篤生君、船藤幸生君、松本敏博君

以上の方に各表彰盾を会長より贈呈した。

◆出席報告 上坂武喜委員長

会員数	10月23日出席率	10月９日の修正
５６ (免除１)	８３．９２％ (欠９)	８９．１０％ (欠６メーク３)

メーキャップ：南部 勉君、岡部一輝君、西川雄策君

◆幹事報告 渡邊秀一幹事

①ガバナーノミニー候補告知に付いて**柳生良春さん**がノミニー候補になられました。
②新湊RCより例会変更の案内を受領。

◆ガバナー補佐挨拶 岡部ガバナー補佐

一言御礼申し上げます。10月2日中尾ガバナー公式訪問の節はお世話になり有難う御座います。ガバナーの卓話に興味を持って頂けたでしょうか。又懇親会も大いに盛り上げてもらい有難う御座いました。 今月はその後も色々と行事があり久しぶりに例会に参加する事が出来ました。これでガバナーの公式訪問は全て終わりました。私の補佐としての仕事も終わりました。後は来年3月２日の都市連合会が予定されています。強力な布陣で段取りしていますので、今回のガバナー公式訪問以上に皆さんの協力で盛り上げて頂きたい、と思っています。宮川実行委員長、懇親会につきましては福岡委員長となっており強力なメンバーが決まっております。又中身についても宮川さんから素案を聞いておりガバナーに話しましたら非常に興味を持っておられ、宮川さんにはこれまで以上にお願いしたいと思っています。これで7クラブを回りましたが当南砺クラブが如何に優秀なクラブで有るかつくづく感じました。これはチャーターメンバーが営々と築きあげてきた事が伝統となり、これが非常に大事な事ではないかと他のクラブを回ってしみじみと感じました。公式訪問につきましては皆さんにお世話頂有難う御座いました。

☆ニコニコボックス 吉田 勉副委員長

中田修君 皆さんの植えられたリンドウが、先週よりきれいな花を咲かせています。見てやってください。
岡部君 久しぶりにホームクラブの出席になりました。ガバナー訪問はお蔭様で無事終える事ができました。当クラブの公式訪問の際には大変お世話になり、本当に有難うございました。結婚記念のお祝有難うございました。
宮川君 某金融機関のコンペに優勝しました。久しぶりにいいスコアが出ましたが、夜もたくさん出ました。
税光君 先週10/19新湊ＲＣで米山奨学生何さんの卓話をしてきました。これで卓話は全て終了です。井沢さんご苦労様でした。
河合君 １年に大事な法要。自坊にて24日25日報恩講を勤めます。その準備で忙しいです。
山田英君 先回の例会添乗で欠席しました。今年の紅葉は最高で、白山スーパー林道1500mがちょうどでした。市議選、水口さん、山田さん、古軸さん頑張って下さい。
古軸君 久しぶりの雨となりました。恵みの雨となるよう頑張ります。
松本敏君 夕べの風が大変でしたね、皆さんいかがでしたか？
米田君 久しぶりの雨です。早退します。すみません。
牧 君 早退します。
川合君 早退します。
細川君 本日は所用で早退させて頂きます。

本日のプログラム 10月30日(火) 第2199回
環境保護研修会 小矢部園芸高校教諭島田誠治先生による卓話 牧社会奉仕委員長担当

次回の予定 11月６日(火) 第2200回
R財団フォーラム
安谷行雄R財団委員長担当

会員卓話　「砥について」

会員　水口秀治君（水口青玉堂主人）

今日は時節柄「砥」について話をさせて頂きたいと思います。

たぶん家の親父も20数年前「砥」について話したんじゃないかと思います。本当は今日はタイムリーな話をすればよいと思いますが今日は砥について話させてもらいます。

私の店は私で五代目になります、明治13年の創業ですのでもう120年ぐらいですかね。初代は、小矢部川に綺麗な石が有るということで、何か作ったら良いのではないかと思い福井の若狭の小浜の瑪瑙細工師を福光に呼んできて作らしたのが始まりで初代は職人を雇って作らしていた。二代目はその技術を習って自分の家で作るようになった。

昔は我が家だけでなく何軒かあったそうです。昭和初期戦争の影が濃くなってきますと、贅沢品は駄目だと言うことになってどんどん辞めて行かれて、たまたま戦後に残ったのがうち一軒だけだと成っているそうです。

実は書類で残っているんですが戦争末期ごろに砥の石を貨車で神戸へ運んでいたそうです。日本は物資が無いので硬い砥の石を神戸へ送って粉にして研磨材にして使っていたそうです。良い綺麗な石が粉にされて残念だと思います。

おかげさまで私も継がさせて頂いて五代目です。最近はあんまり仕事をしていないのではないか？子供たちからは掻き氷屋のオッチャンなどと呼ばれ商売がなんだったか分からないように成って来ましたが、石も氷も削るのは削るですから、同じかなという風に思ったりもいたしますけど。

砥には硬砥、軟砥があります。中国物産展などに行きますと大きな香炉か何か分かりませんが、緑色したのが有りますがあれは軟砥ですね柔らかいですね。極端なことを言えば小刀でも削っていけるくらいの硬さです。福光で取れる石は硬砥、硬い石です。砥盃やら色々造らして貰っていますが全て砥石で磨きあげただけです。普通に使って頂いて艶が無くなると言う事は有りません、自然の艶です。普段、よく使って頂ければと思います。

砥の石も不思議な石で刀利ダムのもう少し上の方に岩の層が有りその間に泥と一緒にこの砥が入り込んでいます。永い間に小矢部川の水で削られて流れ出して来たものが見つかると言う事です。世の中うまくしたもので上流にあるときは大変ヒビの多い石です。それが流れて来る間にヒビのところで割れてくるのです。割れて芯のところが福光周辺からもう少し下流で見つかるのです。探しやすいところになるのです。一生懸命探さしていただいて、日長、南京袋を担ぎながら材料を自ら集めに掛かっているのです、他の地域から買っているのでは有りません。

小矢部川は国の管理ですから福野の土木事務所に採取許可を出すのです。小矢部川だけ特別だと思いますが、砥の採取許可と言うのが有ります。砂利の採取許可というのは有りますが、砥の採取許可というのがあるのは小矢部川だけです。皆さんが川原へ行って砥石を拾って持ってくるは大丈夫なのです。商売をすると成ればお金を納めて下さいということなのです。皆さんはドンドン、アッ！　ドンドン採りに行っても困りますけど。良いのが有ったら教えて頂けたら一番です、又教えてください。最近は小学校の皆さん三、四年生が多いのですが、ふるさとを知ろうと言う授業がございます。昔からの砥の話をするのですが小学生ですから質問はストレートです。

『これ作ってて儲かるんですか？』『これ作ってて何か面白いですか？』など言われますけど砥の石に同じ石はありません、同じ白でも、赤でも、黄色でも一個一個全部違います。同じ石から砥杯を二つ三つ取ることが有ります、それでも本当に風合いと言うかそういうものが違います。うちが困る注文は同じ物を五個揃えてくれという注文です。これが揃いそうで揃わない、同じ様な物なら用意できますと申し上げるのですが、一つ一つ全く違う盃が出来てきます。一つ一つ手で作りますから、多少高さとか大きさとか違うものが出来てきます。お客さんにも説明して買って頂くんですが、少し違いが有るのが良いと言って頂いたりもします。普通の晩酌用の盃ですが大体三個同時に作らしていただきます。一個ずつ作っていると効率が悪くなるので大きな石から石取りをする切れ目を入れて鏨でハツッテいく、また切れ目を入れて鏨でハツッテいくそれで非常に大雑把な盃にしていくわけです。その後はドンドン削っていく一方です。内側を削ったところ、ここに熱くした松脂を入れる中に金属のロクロを横にした様なネジが切ってあって回しながら周りを削っていく周りをある程度仕上げたら、今度は内側を削っていくそしてドンドン薄くしていくそうすると石の色が段々白に近づいていきます。

砥の芸術

初めは濃い色、黒みがかった色だが削っていくと綺麗な澄んだ色が出てくる。どこから削ってやればこの石が生きるのか計算しながら作らさして頂いているのであります。

最初は親父に申し訳ないのですが家を継ぐのが大変嫌でした。両親は両貰いです。お祖母ちゃんは優しい人でしたが、お祖父ちゃんは大変厳しい人でした。私もバットで持って追いかけられて逃げ回った覚えもあります。大変厳しい人でした。親父はニコニコと優しい親でした。朝から晩まで食事以外は仕事をしてました。それをみてこれはきつい仕事だなと思っていました。三年ほどサラリーマンをして実家に帰ってきました。祝日に寝ていましたら階下から音がするので起きて行ってみたら、『うちは日曜以外休みは無い』といわれ悩みました。

26歳で帰って家業を継いだのですが、仕事は教えて貰えるものと思っていたら〈仕事を見て覚えろ〉ということで見よう見まねで覚えてきました。作業は機械を使用するので非常に危険で怖い事もあります。そのうち手際も良くなり2年半ぐらいしてから、砥杯を店頭に並べてもらえるようになりました。

お客さんから父親の作った物を出せと言われると自分はまだまだ頑張らなくてはと思います。

砥の世界も深みに嵌まれば嵌まるほど面白いものです。砥も普段無くても良いようなものですが。たまに思い出してもらえば良いようなものです。仕事も兼業ぐらいにしないと厳しくなっていくのかなと思ったりもします。息子も二人おりますから、まだ頑張っていきたいと思います。

今日は私の誕生日ですその日に話さして貰い感謝します。有難う御座いました。

（今回の会報担当　税光信作）